

ケーブルテレビの放映時間枠を理由に

本会議での再質問の時間制限に抗議します

日本共産党品川区議団は、以下の声明を発表しました。

品川区議会は、9月20日からはじまる第3回定例区議会において、本会議の再質問の時間制限を強行しようとしていますが、日本共産党区議団は、これに強く抗議します。

この間、議長に対し第2回定例会での試行を中止するよう要望書を提出しましたが、試行後の8月23日の議会運営委員会で共産党を除く賛成多数で決定しました。

議会質問は、区民の付託を受けた議員が、区長に対し区政上の問題や区民要望を直接迫る、議会、議員のもっとも重要な活動です。共産党区議団は、本会議での代表質問・一般質問を区民のみなさんの声を聞き、調査・研究と議論を重ね準備をします。

再質問は、この質問に対し、通り一遍の答弁や不十分な答弁であれば、区の姿勢、施策をより具体的に明らかにするために必要不可欠で重要な役割をもっています。

ところが区議会は、ケーブルテレビの議会中継での放映時間枠を理由に、質問時間の制限を強行するものです。これまで放映されない再質問、再答弁を放映することは良いことです。しかし従来の時間枠を増やさず、時間内に納めるために再質問時間を質問持ち時間の10分の1（2分か3分）に削減するというのですから本末転倒です。

今まで、本会議場での再質問は議員の良識に任せ、時間制限はありませんでした。議会活動の基本である「発言の自由」を保障するためのものです。

これまで品川区議会は、議会の内容を区民に知らせるために、委員会の傍聴、会議録の全文公開など、区民に開かれた議会をめざしてきました。ところが、今回の決定は、開かれた議会に逆行し、行政の批判と監視という議会の役割を弱めるものです。

共産党区議団は、断固抗議し撤回を求めます。

